

○ 第3学年 全体の傾向と経年変化および達成率

	国語	社会	数学	理科	英語	
H29 (1年次)	目標値	63.3	64.5	65.7	61.1	
	校内平均正答率	79.0	60.8	70.0	62.9	
	市平均正答率	76.6	57.7	68.8	60.7	
	校内平均正答率と市平均正答率の差	2.3	3.2	1.2	2.2	
	校内平均正答率と目標値の差	15.7	△ 3.7	4.3	1.8	
	達成率(宮城野中)	91.0	55.1	69.2	68.5	
	達成率(仙台市)	87.3	48.2	68.2	63.8	
H30 (2年次)	目標値	63.6	60.0	60.6	60.0	59.9
	校内平均正答率	69.9	56.0	65.8	57.2	58.4
	市平均正答率	69.7	57.4	65.2	58.7	57.6
	校内平均正答率と市平均正答率の差	0.2	△ 1.4	0.6	△ 1.5	0.8
	校内平均正答率と目標値の差	6.3	△ 4.0	5.2	△ 2.8	△ 1.5
	達成率(宮城野中)	76.1	54.9	66.4	56.4	52.9
	達成率(仙台市)	77.3	56.0	67.8	59.8	54.0
R1 (3年次)	目標値	64.2	57.2	58.4	55.3	58.1
	校内平均正答率	73.2	61.1	61.9	63.4	61.4
	市平均正答率	72.6	60.7	61.4	60.1	62.6
	校内平均正答率と市平均正答率の差	0.6	0.4	0.5	3.3	△ 1.2
	校内平均正答率と目標値の差	9.0	3.9	3.5	8.1	3.3
	達成率(宮城野中)	79.4	64.5	63.6	73.2	58.3
	達成率(仙台市)	79.7	64.9	63.7	65.1	64.2

△はマイナスを表します。

○ 第3学年 5教科の結果と今後の取組

国語

分類	区分	目標値	校内平均正答率	市平均正答率
基礎・応用	教科全体	64.2	73.2	72.6
	基礎	68.4	76.2	75.6
	応用	55.0	66.8	65.9
領域	話すこと・聞くこと	73.8	76.7	78.8
	書くこと	60.6	71.1	68.6
	読むこと	56.9	68.4	68.6
観点	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.3	76.6	75.8
	国語への関心・意欲・態度	67.2	73.7	73.4
	話す・聞く能力	73.8	76.7	78.8
問題の内容	書く能力	60.0	69.7	67.4
	読む能力	56.3	67.4	67.4
	言語についての知識・理解・技能	67.8	76.4	75.4
問題の内容	話し合いの内容を聞き取る	73.8	76.7	78.8
	漢字を読む	75.0	86.5	85.3
	漢字を書く	70.0	78.1	76.9
	文法・語句に関する知識	60.0	65.4	65.3
	説明文の内容を読み取る	56.3	63.5	63.5
	文学作品の内容を読み取る	57.5	73.4	73.7
	資料を集めて発表原稿を書く	53.3	62.0	61.1
	作文	65.0	76.6	73.1

成果と課題および今後の取組

教科への関心意欲が高く、基礎・応用・教科全体、またすべての領域で目標値を5ポイント以上上回った。特に、「書くこと」の領域では、昨年度より17ポイント高くなり、作文では市平均正答率を3.5ポイント上回る結果となった。普段の授業の中で文章を書く機会を今後も大切にしていきたい。また、漢字の読み書きや文法・語句に関する問題で、ともに目標値・市平均正答率を上回り、定期的な漢字テストの実施や文法学習の積み重ねの成果が基礎的な知識の定着につながっていると考えられる。

一方で、「話すこと・聞くこと」については昨年度同様、市平均正答率をわずかに下回った。問題の内容から見てみると、話の内容を正確に聞き取ることはできるものの、複数の意見を整理しながら聞く力や、内容を吟味して自分の考えにつなげる力が低いことが分かった。今後は、意見の共通点や相違点を挙げながら聞く学習を取り入れていき、話し合いの力を伸ばしていきたい。

社会

分類	区分	目標値	校内平均正答率	市平均正答率
基礎・応用	教科全体	57.2	61.1	60.7
	基礎	61.7	64.1	64.1
	応用	45.6	53.4	51.9
領域	日本の地域構成	58.3	57.7	59.5
	世界と比べた日本の地域的特色	56.7	56.7	59.8
	日本の諸地域	57.1	66.7	66.6
	身近な地域の調査	50.0	58.8	56.2
	近世の日本	58.5	58.2	56.5
観点	近代の日本と世界	57.5	65.8	64.8
	社会的事象への関心・意欲・態度	55.7	61.1	60.5
	社会的な思考・判断・表現	50.2	55.2	54.4
	資料活用技能	56.5	61.5	61.6
問題の内容	社会的事象についての知識・理解	60.0	63.4	63.1
	日本の地域構成	58.3	57.7	59.5
	世界と比べた日本の地域的特色	56.7	56.7	59.8
	日本の諸地域	57.1	66.7	66.6
	身近な地域の調査	50.0	58.8	56.2
	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	62.5	54.1	56.8
	江戸時代	55.8	60.9	56.4
明治時代	57.5	65.8	64.8	

成果と課題および今後の取組

全体的に基礎学力・応用力ともに目標値・市平均正答率を上回っており、意欲的に取り組んでいる。

領域の分野では、複数の資料から必要な情報を読み取ることが苦手なようで「何を質問されているのか」「何を読み取るのか」「どのように表現すればよいのか」というところを明確に出来るようにすることが課題である。

江戸時代や明治時代など学習したばかりのものは得点が高いので、日頃から復習する習慣をつけると相対的に得点アップにつながると考えられる。

今後の取り組み方としては、複数の資料から必要な情報を読み取り、的確に表現する力が求められるので、資料を活用した授業を展開することや資料の精選など苦手分野の克服に寄与していきたい。

数 学

分類	区分	目標値	校内平均正答率	市平均正答率
基礎・応用	教科全体	58.4	61.9	61.4
	基礎	63.4	69.3	68.4
	応用	44.4	41.4	41.8
領域	数と式	63.8	67.4	67.6
	図形	53.3	51.6	50.7
	関数	50.5	55.1	54.8
	資料の活用	69.0	76.1	73.6
観点	数学への関心・意欲・態度	48.6	48.6	47.3
	数学的な見方や考え方	45.3	43.8	43.7
	数学的な技能	61.8	67.8	67.4
	数量や図形などについての知識・理解	58.8	62.6	61.1
問題の内容	計算の復習	75.0	79.2	79.1
	式の計算	67.0	68.0	67.6
	連立方程式	56.0	62.1	63.1
	1次関数	50.5	55.1	54.8
	図形の性質	60.0	68.0	67.8
	証明	46.7	35.2	33.6
	確率	69.0	76.1	73.6

成果と課題および今後の取組

数学科全体の傾向としては、目標値、市平均正答率に比べ、それぞれ3.5ポイント、0.5ポイント上回っている。各分類ごとに見ると、ほとんどの項目で市平均を上回っているものの、基礎・応用では、応用の項目で0.4ポイント下回り、領域の数と式で0.2ポイント、問題内容の連立方程式で1.0ポイント下回っていることから、連立方程式の応用問題に課題がある傾向がみられる。これらのことを踏まえ、数と式の方程式分野では、「学びあい」の学習を効果的に設定し、特に文章問題からの立式や、解決に利用する方程式の正しい選択方法について議論を深めさせ、身に付けられるようにしていきたい。

理 科

分類	区分	目標値	校内平均正答率	市平均正答率
基礎・応用	教科全体	55.3	63.4	60.1
	基礎	57.5	67.6	63.7
	応用	50.0	53.3	51.4
領域	エネルギー	48.8	53.5	53.0
	粒子	58.8	69.7	62.6
	生命	56.0	66.9	61.5
	地球	57.5	62.8	63.0
観点	自然事象への関心・意欲・態度	55.3	62.3	59.4
	科学的な思考・表現	52.8	60.3	57.2
	観察・実験の技能	64.5	73.8	71.6
	自然事象についての知識・理解	55.3	63.9	60.6
問題の内容	物質の成り立ち	60.0	70.8	59.8
	化学変化	66.7	80.4	76.3
	化学変化と物質の質量	45.0	52.0	46.4
	生物と細胞	50.0	66.0	57.0
	動物のからだのつくりとはたらき	54.0	66.5	59.4
	動物の分類と生物の進化	63.3	68.3	67.9
	電流の性質	40.0	38.9	39.1
	電流と磁界	43.3	46.9	50.3
	電流の正体	70.0	85.1	78.1
	前線の通過と天気の変化	63.3	71.3	71.1
	大気中の水蒸気の変化	60.0	50.9	54.4
日本の気象	50.0	62.1	60.6	

成果と課題および今後の取組

教科全体として、校内平均正答率が仙台市平均正答率をほとんどの項目で上回っている。昨年度の結果では、多くの項目において仙台市平均正答率を下回っていたため、昨年度からの課題に取り組んできた成果が現れていると考えられる。昨年度からの課題として、基礎基本の定着のために既習事項の振り返りをしながら授業を進めること、実験・観察における予想と結果をもとにした言語活動によって思考・表現力を高めることを目的としてきた。今後も、同様に継続し更に力を伸ばしていきたい。平均を下回った内容としては、「電流と磁界」「大気中の水蒸気の変化」であった。どちらも苦手とする生徒が多い分野である。どちらも図とともに理解できるようにすること、独特の用語や言い回しに慣れることを課題として、実力考査などを活用し復習を行っていきたい。

英 語

分類	区分	目標値	校内平均正答率	市平均正答率
基礎・応用	教科全体	58.1	61.4	62.6
	基礎	61.2	66.8	67.3
	応用	50.0	47.4	50.2
領域	聞くこと	65.0	71.1	72.5
	読むこと	59.2	59.5	61.0
	書くこと	51.5	55.7	56.6
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	58.1	64.5	66.5
	外国語表現の能力	46.9	51.2	52.9
	外国語理解の能力	61.3	65.2	67.0
	言語や文化についての知識・理解	58.8	60.4	60.0
問題の内容	リスニング(内容理解)	70.0	79.1	79.9
	リスニング(対話文の応答)	57.5	59.2	61.4
	語形・語法の知識・理解	63.8	61.7	61.0
	語彙の知識・理解	55.0	55.3	56.3
	さまざまな英文の読み取り	62.5	56.6	60.4
	長文の読み取り	53.0	60.1	61.4
	単語の並べかえによる英作文	57.5	64.3	62.6
場面に応じて書く英作文	40.0	26.2	25.7	
3文以上の英作文	46.7	64.6	69.7	

成果と課題および今後の取組

教科全体は校内平均正答率・市平均正答率共に目標値を上回り、校内平均が市平均より1.2ポイント下回る結果となった。前年度と比較すると、市平均との差が大きくなったことがわかる。分類別に見ると、平均して1ポイント程度の差だが、「さまざまな英文の読み取り」については3.8ポイント、「3文以上の英作文」は5.1ポイント下回った。このことから、既習の語句や文法を理解し、適切に読み取ること、用いることができる力の育成が課題と言える。前年度から、語句や文法などの基礎・基本の定着を目指しており、今後は応用力を身に付けさせたい。今回の結果を踏まえて、説明文・会話文・物語文などの様々な英文に触れる機会を増やし、読み取った内容に関する自分の考えをまとめるなど、より発展的な活動を通して、力を伸ばしていきたい。

○第3学年 生活・学習状況調査の分析と今後の取組

①全体の傾向

基本的な生活習慣について

- (1) 友達に会えるから、毎日学校に行きたくするという生徒は、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の割合が全体の90%を占め、同じく90%の生徒が学級に信頼できる友達がいると答えている。
- (2) 学校のきまりを守っているという生徒は、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の割合が全体の98.2%を占めており、昨年度同様に良い傾向にある。
- (3) 普段(平日)、一日当たりにテレビやDVDを見る時間が2時間以上という割合が39.9%と仙台市平均より2.7%高い。
- (4) 普段(平日)、勉強以外で一日当たりにスマホ等の通信機器を使う時間が2時間以上という割合が46.9%と、仙台市平均より5.6%低く、良い傾向にある。
- (5) 「自分には良いところがあると思う」と答えている生徒は、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせて74.6%であるが、「先生が良いところを認めてくれている」と答えた生徒は、83.8%である。
- (6) 地域の中で、知っている人に会った時、あいさつをしている生徒は、「している」と「どちらかといえばしている」の割合が、89.9%と仙台市平均とほぼ変わらない。しかし、地域の行事に参加している生徒の割合は仙台市平均より25.7%低い。

学習面について

- (1) 5教科の中に好きな授業のある生徒は、「当てはまる」と「どちらかといえばある」の割合が、87.3%と昨年度同様高く、仙台市平均をやや上回った。
- (2) 平日の家庭学習を1時間以上している生徒の割合は、55.3%と仙台市平均を6.1%上回り、学習塾で1時間以上勉強している生徒の割合は55.7%であった。
- (3) 「将来の夢や目標を持っている」生徒(73.7%)は、「夢をかなえるためにたくさん勉強する」(76.8%)傾向にある。
- (4) 「大事なことを覚えるときは、図に書いたり、表にしたりして、覚えやすい形にして覚える」生徒は、68.4%で仙台市平均を5.5%上回っている。
- (5) 「学校の授業などで、自分の考えを文章に書いたり、説明したりするのは好きな方だ」という生徒は、39.9%であり仙台市平均より5.4%低い。
- (6) 「昼休みや放課後、学校が休みの日に、学校の図書館や地域の図書館へ月1回以上行く」生徒は14.0%であり、仙台市平均より6.1%低い。

②課題と今後の取組

【課題】

- (1) 基本的な生活習慣について
 - 毎日学校に行きたいと思っている生徒の割合が仙台市平均とほぼ同じであるが、そう思っていない生徒が10%いることは課題である。
 - 起床時刻、就寝時刻は概ね望ましい状況であるが、家庭学習の時間が少ない。帰宅後の時間の使い方を考える必要がある。
 - スマホ等の通信機器をきまりがないままに使用していることは、望ましい生活習慣の大きな妨げになっている。
 - 概ね、きまりを守って学校生活を送っているが、自分に都合のいい判断で行動している面も見受けられる。
 - 地域等と関わり合いながら、社会のために自分の力を尽くそうと考えている生徒が少ない。
- (2) 学習面について
 - 自分が感じていることや考えていることを、文章や口答などで人に伝えることを苦手とする傾向が強い。
 - 「将来の夢や目標」を持たず、努力できない生徒が2割以上いる。
 - 教科の結果からも、家庭学習の時間を更に確保して、授業の予習・復習に力を入れる必要がある。

【今後の取組】

- (1) 基本的な生活習慣について
 - 毎日学校に行きたいと思っていると答えていない10%の生徒への心のケアや配慮に努める。
 - 集会等で生徒に携帯電話の使用方法や約束事について継続して指導するとともに、保護者会等で周知徹底し、協力をいただく。
 - 帰宅後の時間を有効に使い、学習時間を確保するための個に応じた助言、支援を継続して行う。
 - 地域清掃やボランティア活動等への参加を通して、社会のために活動した充実感を味わわせ、人のために力を尽くす姿勢を育てる。また、地域の図書館などを積極的に活用するように促す。
- (2) 学習面について
 - 各教科に興味・関心を持たせるために、教材教具の開発や指導方法の改善に努める。
 - 自分の意見をはっきり述べるができるように、道徳や学級活動においても積極的に話し合い活動を取り入れたり、安心して発言できる学級づくりに努める。
 - 課題解決のための調べ学習を重視し、話し合い活動や調べ学習を授業により取り入れて、意欲を喚起しながら主体的な学習態度の育成を図る。
 - 生徒の努力や頑張りを認めながら、満足感や成就感を味わわせる分かる授業づくりに努める。また、進路学習などを通して、将来の夢に向けての具体的な目標を持てるように個に応じて支援していく。